

●取扱説明をよくお読みのうえ正しくご使用ください。
そのあとと保存し、必要なおきに読みおみください。

ご使用前に

▼この商品は自転車用仏式バルブチューブ（プチルゴム製）です。他の目的には使用しないでください。
▼タイヤ、チューブの交換は専用工具や専門知識が必要となります。整備士資格のある専門店または専門コーナーに依頼されることをお奨め致します。ご自分で交換される場合、自転車の種類によって方法が異なりますので、分解・組立方法については自転車メーカーへお問合せください。
▼ご購入の際は必ず交換されるチューブと同じ「リム型式」および「直径・幅」であることを確認してください。

W/Oリムの場合 (例) W/O 26 x 1.3 ^g	①リム型式 ②チューブの直径(インチ) ③チューブの幅(インチ)
H/Eリムの場合 (例) H/E 26 x 1.75	巾の表示: W/Oは分数 H/Eは小数点

*W/OリムとH/Eリムとは互換性ありません。W/OタイヤはH/Eリムに、H/EタイヤはW/Oリムに、装着ができませんのでご注意ください。



>PP<

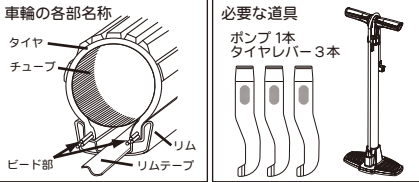
安全上のご注意 (必ずお守りください) ⚠警告

- 空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧に従う
- 走行前にタイヤに釘やガラス片などの突起物がささっていないか点検する
- パンクの原因となります。
- パンクによる転倒の原因となります。
- 子供など取扱いに慣れない方だけで使わず、1. 幼児の手が届く所で使わない
- 誤飲の原因となります。
- リムへの取り付けの際、油やワックスは使用しない
- 走行中にタイヤがはずれて転倒の原因となります。

仏式バルブチューブ取扱説明

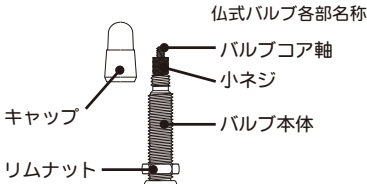
- ▼チューブの取りはずしや取り付けには必ず専用工具のタイヤレバー(別売)を使用してください。※ドライバーなどを使用するとタイヤやチューブを傷つけます。
- ▼チューブの交換時に、リムテープ(別売)も新しいものと交換してください。※リムテープとは、スポーク穴をふさぐためのゴムまたは樹脂製のバンドのことです。(下図参照)
- ▼購入直後の製品でも、在庫の保管期間や状態によってはゴムが経年劣化し、チューブにひび割れや亀裂を生じたりする場合があります。装着前に異常があった場合、使用せずご購入店または下記の弊社「お客様相談室」へご連絡ください。

正しいチューブの取り替えかた

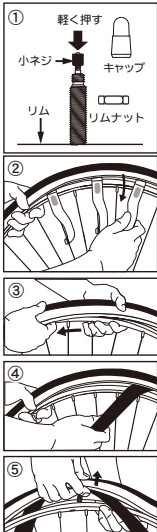


*タイヤレバー・ポンプは当社オリジナル製品をおすすめいたします。

仏式バルブチューブの取りはずしかた



- ①バルブのキャップとリムナットを外し、バルブコア軸の小ネジを緩め、軽く押し込んで空気を抜いてください。
- ②ビード部にタイヤレバーを10cm位の間隔で1本ずつ差し込み、矢印の方向に倒してください。
※このときチューブを傷つけないように、タイヤレバーはビード部のみにかけよう。注意。
※タイヤレバーを差し込む際に、レバーがスポークから外れないようにしっかりとかける。
- ③リムに沿って20~30cm程度、②の作業を繰り返しながらビード部を外し、残りのビード部は指で外してください。
- ④片側のビード部全体をリムから外す。その後バルブ部分を残してチューブを取り出します。
- ⑤タイヤと、チューブのバルブ部分とをしっかりとつかみ上げ、もう片方のビード部をリムから外します。



お願い

- タイヤの空気圧チェックは走行前に必ず行ってください。
※空気の入れ過ぎや低圧使用はタイヤの破損やパンクの原因となります。必ずタイヤの標準空気圧に従ってください。
- チューブが以下の状態になった場合は直ちに交換してください。
1. ひび割れ、亀裂、シブ、傷、摩耗がある場合。
2. バルブに変形、破損がある場合。
- チューブの取り付けやパンク修理の際に、チューブをタイヤの外に出した状態で空気を入れ過ぎるとチューブが変形したり破裂したりします。入れ過ぎないように注意してください。
- ブレーキゴムがタイヤ側面に当たらないよう装着してください。
- 直射日光や雨の当たるところに置かないでください。
- ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- ガソリン・有機溶剤・油類のあるところに置かないでください。
- 取扱い等不明な点は、お買い上げの販売店または「お客様相談室」にお問い合わせください。

仏式バルブチューブの取り付けかた

- ①タイヤにチューブのバルブ部分を はめ込み、リムのバルブ穴にチューブのバルブを通してください。
- ②リムに沿って片側のビード部を徐々にリムにはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。
- ③チューブをタイヤの中に入れてください。
※このときチューブをねじったり、折り曲げたりした状態で無理にタイヤを押し込まないように注意。
- ④もう片方のビード部をバルブの反対側(図の矢印の位置)からリムに沿って徐々にはめていってください。
※このときチューブをはさまないように注意。
- ⑤バルブ部分へのビード部はめ込みは、チューブがはさまらないようにバルブを図のようにリムの内側に2~3回軽く押し込んでください。
※ビード部を両側ともはめた後、リムとビードの間にチューブがはさまっていないか両側のビード部を必ず点検する。はさんだまま空気を入るとパンクします。
- ⑥バルブにリムナットを取りつけてください。
※リムナットは必ず装着し、指で締める。
- ⑦空気をすこし入れてビード部がリムに均一にはまっているか点検してください。均一でない場合は手でもんで調整します。調整の後空気を徐々に入れてください。
- ⑧空気圧はタイヤに表示されている標準空気圧(推奨空気圧)に従ってください。空気を入れた後小ネジを締め、最後にバルブのキャップをつけて終了です。
※バルブキャップは必ず装着してください。バルブ内へのホコリ、水分の侵入を防止します。

